

(1) 新城市立八名中学校

ア 研究の経過

月日	活動内容
4月13日	昨年度の「カリキュラム・マネジメントの在り方に関する研究」の課題について説明 各種シートについて校内研修 令和2年度グランドデザインについて意見交換
5月15日	検討用シート, 現状把握シート集計結果提案 令和2年度グランドデザインを協議→育成すべき資質・能力を「本気」「創出」に決定
6月12日	第1回研究協力校連絡会 会場: 総合教育センター 研究の概要, 研究方針の説明 新城地区研究協力校代表委員と情報交換及び方向性についての共通理解
7月2日	「本気」「創出」を目指した校内授業研究(社会科)
7月16日	八名小学校にてカリキュラム・マネジメントについて説明・協議
7月20日	授業検討会, 授業での対話活動のもち方等協議 令和2年度グランドデザイン完成
7月31日	社会に開かれた教育課程に関する研究の進め方について新城地区小中高連絡協議会
8月27日	SWOT分析シート結果の説明・協議
8月28日	第2回研究協力校連絡会(新城地区) 会場: 県立新城有教館高等学校 資質・能力の育成に向けた取組についての協議, 授業参観, 校内見学
10月9日	カリキュラム・マネジメントを意識した校内授業研究(社会科・音楽科・保健体育科)
10月30日	第3回研究協力校連絡会(新城地区) 会場: 新城市立八名中学校 各校の資質・能力の育成に向けた実践についての協議, 発表会資料の検討
11月19日	社会に開かれた教育課程, 授業の進め方, 評価方法について協議
11月20日	第4回研究協力校連絡会 会場: 総合教育センター 発表会に向けてのリハーサル, 本年度の研究のまとめについて(研究紀要)
11月27日	第60回総合教育センター研究発表会(中間報告)
12月21日	授業の進め方, 社会に開かれた教育課程について協議
2月2日	「本気」「創出」を目指した校内授業研究(英語科・国語科)
2月16日	第5回研究協力校連絡会 会場: 総合教育センター 本年度の研究のまとめと次年度への取組について

イ 過程で見えてきたこと

昨年度まで「本気」「創造」「話し合い」をキーワードに授業実践を行ってきた。昨年度末の職員アンケートでは、本校生徒において「本気になって授業に取り組んでいる」「話し合いを積極的に行ったり、新しいものを創造したりしている」等の項目がまだ不十分であるという結果が出ており、継続的に指導していく必要を感じた。また、今年度の現状把握シートの集計から、生徒の強みとして「指示を受けて、確実に活動する」「協力的であり、素直に行動する」等、素朴で真面目な生徒であるが、弱みとして「感情を表に出し、熱中する姿が見られない」「新しいことや他と違うことに挑戦することに抵抗がある」等、消極的な面が浮き彫りとなった。このような現状を踏まえ、「課題を自分事として捉え、粘り強く学ぶことができる力」「新しいことにも進んで取り組む力」等を身に付けていく必要性を感じた。

検討用シートの取組からは、「教育目標の理解」「リーダーシップ」等の項目において、本校職員が高い評価をしていることが確認できた。これは、昨年度までのカリキュラム・マネジメントの研究への取組の成果だと考えられる。それに対して、カリキュラムの「評価」「改善」の項目の結果が低くなっている。資質・能力の育成の面から学校行事、授業等の評価・振り返りを確実にを行い、よりよい教育活動に改善できるように具体的な手だてを考えていく必要があると感じた。

現状把握シートで生徒の実態をつかんだ後、SWOT分析シートで学校の内外部の環境について全職員で共通理解を図った。分析した結果として、支援的に働く項目は「教育熱心な保護者」「教育資源・地域人材が豊富」、阻害的な項目は「郷土学習や地域との協働の取組等では、学校主導で計画することが困難」「保護者の距離が近い」という結果だった。学校内部の強みは、「素直で真面目な生徒」「協力的な職員」、弱みは「受け身な生徒」「職員の不足」等が上げられた。学校がおかれた環

境を改めて押さえ、恵まれた教育資源、協力的な保護者等の強みを生かすことで、弱みをカバーして生徒を育成していくことが大切であると相互理解を深めた。

ウ 「社会に開かれた教育課程」を実現するための、資質・能力を意識した実践

各種シートの取組、昨年度の研究の課題を受け、今年度の重点目標を「何事にも本気で取り組み、個人追究や協働学習を通して新たな考えを導き、新たな行動、新たな自分自身を創出する」とした。手だてとして「対話活動」を軸に据え、「本気」「創出」をキーワードに教育活動を進めた。

3年社会科では、民主主義の在り方や地方自治の学習において、生徒の本気を引き出す手だてとして市の施策に直接関係している機関と連携した学びの機会を設けた。民主主義の在り方の学習では、本校の後期生徒会選挙に合わせて、新城青年会議所と市議会議員の協力の下「生徒会選挙をプロデュース」と題した集会を開催した。選挙の意義や公約の作り方を学んだ後、グループワークを通して、八名中学校がよりよくなるための方策を考え、発表し合った。地方自治の学習では、市役所まちづくり推進課と市内出身の16～29歳で構成されている若者議会の委員とオンライン会議を行い、新城市が抱える課題について意見交換を行った。学習のまとめでは、生徒自らが考えた新城市の活性化に向けた施策、要望書をまちづくり推進課に提出した。これらの学習を通して、生徒は、新城市の施策に関心をもつとともに、市の未来像を見据えた住みよいまちづくりのために自ら考え、行動することの意味を理解し、将来の担い手としての素地を身に付けた。

2年総合的な学習の時間では、新型コロナウイルス感染症拡大の影響で中止となった職場体験学習の代替として、「新城市企業PR動画」の作成に取り組んだ。地元企業8社を取材し、社風や経営方針、企業のこだわりや強み等を理解した上で動画を作り、配信する一連の学習を、新城青年会議所支援の下に行った。生徒は、青年会議所が紹介して下さった地元企業との取材や打ち合わせを通して、自分たちが作るPR動画に企業が大いに期待を寄せていることに気づき、企業



【写真 企業PR動画撮影の様子】

の会社経営に対する思いを受け止めながら動画構成や撮影方法を提案した。撮影本番は計画通りにいかないところもあったが、その場で考えを修正しながら撮影を終えることができた(写真)。最終的に青年会議所を通して専門家に編集を依頼して出来上がった動画は、予想をはるかに超えた出来栄で、生徒たちは感嘆の声をあげ、喜びを露わにしていた。生徒の感想には、「経営者の方がお客さんを第一に考えていることが分かりました。お客さんとの距離が近く、生き生きと働いている様子を見ることができ、とっても素敵だなあと感じました。今回私たちが作った動画が発信されることで、新城の企業が有名になってほしいです」とあった。社会人と直接触れ合い、動画を作ったことで、地元企業の理解を深め、就業に対して意識を高める活動となった。

エ 成果と今後に向けての見通し

今回の研究は、学校の組織全体で一つの目標に向かって前進していく意識をもつこと、小学校から高等学校まで同じベクトルで新城の子どもの育成にあたること、市・地域等の社会と連携し、教育課程を作っていくこと、この三本柱を大切にしている。柱の一つである「社会に開かれた教育課程」では、社会が求め、目指している目標を意識し、将来の担い手となる生徒に身に付けさせるべき資質・能力を見極め、授業実践の中で高めていくことだと考えている。上記実践においては、社会のニーズに即した活動を授業に取り入れながら、最も大事にしている生徒の学びに向かう本気を生み出し、意識や能力の高まりによって新たな考えを創出することができたと感じている。今後も、家庭、地域、社会と連携・協働をしながら、三本柱を意識して、教育活動の充実を図っていきたい。